

自民党高知県連・支部代表者会

10月18日、高知市のホテルで県連が主催する支部代表者会が開催され、解散総選挙の準備に向け、県連の一致団結を誓い合いました。



山本有二 県連会長
中谷元県連副会長
福井照県連副会長
西本勝子県連副会長



執行部(前列左から桑名政調会長代理、三石組織広報委員長、森田政調会長、満洲総務会長)



執行部(前列左から元木参与、武石幹事長、山本会長、中谷副会長、福井副会長)

自民党総裁選挙街頭演説

高知大会よりレポート



熱く語った総裁候補5名
9月13日、自民党総選挙に立候補をしていた石原伸晃、小池百合子、麻生太郎、石破茂、与謝野馨の5候補が高知城追手門広場(板垣退助像前)にて街頭演説会を開催。3連休最初の日にもかかわらず約4,000人もの聴衆が集まり、5名の候補者が板垣退助像前で熱弁を語りました。



進行を務める武石県連幹事長。



会場は超満員。



登場に際しては子どもたちがガイド役をつとめる演出も。

握手攻めに合う麻生氏。(左)



土森委員

県民生活を不安視させる可能性がある!

■執行部 今後は、就職活動の際の企業訪問や企業開拓について、これまで以上に地元企業に重点を置いて取り組むことで、人材の県内定着を図りたいと考えています。

浦戸湾東部流域下水道の適切な運転維持管理について

平成20年度高知県流域下水道事業特別会計補正予算

■武石委員長 指定管理者制度を導入しない理由は何か。

■土森委員 今回の提案の内容が、多くの県民の生活に影響を及ぼす可能性があるということから考えると、今後さらに時間をかけて調査、審査し、提案の内容が適切なものなのかどうかということについて、継続審査として検討する必要があります。よって、継続審査としてはいけませんか。



武石委員長

■武石委員長 医療センターにおける施設整備の動向も視野に入れ、今回行う拡張工事が無駄となることのないよう、取り組んでほしい!

県立大学 整備費について

■武石委員長 法人化後に交付される運営費交付金については、大学の運営に対する締めつけが強くなっていきたくない。ついては、大学側の裁量により、学費免除制度の充実や県出身の学生に対する優遇制度の導入などが検討できるような、運営資金の面において、ある程度の余裕を持たせることも重要だ。今後、検討してほしい!

企画建設委員会



土佐・くろしお鉄道 中村〜宿毛線の経営改善に向けた取り組みについて

■武石委員長 土佐くろしお鉄道中村宿毛線の経営改善に向けた今後の具体的な取り組みについて、どのように考えているか。

■土森委員 鉄道の存続を図るためには、経営面での発想の転換が必要であり、今までにないような新たな取り組みが求められる。鉄道存続に向けての県としての決意はどうか。

■執行部 経費削減はほぼ限界に達しています。今後は、増収対策のひとつとして沿線住民の方々に乗車を促進してもらう取り組みや、地域鉄道を守るという意識の醸成に努めていきたいと考えています。また、魅力的な企画や、JR四国などとの連携も図っていきたく思います。

高知〜沖縄線廃止について



元木委員

■元木委員 かつての経験や教訓が全く生かされていない。業務の執行体制が不十分ではないか!

■土森委員 県経済や修学旅行に与える影響が大きいことから、今後、交通政策を推進する上で、その重要性をしっかりと認識し、強い決意を持って取り組みべきではないか!

■執行部 いただいた意見や指摘は、しっかりと受け止め、交通政策のあり方や組織体制について庁内で議論してまいります。

Hot Interview

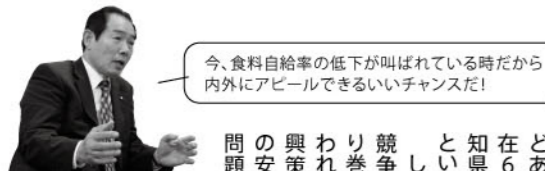


「政治は人」を地で行く。あわてず、おごらず、ぶれない心棒は、不動の独楽。その政治手腕はまさに、いぶし銀。



略歴/昭和14年南国市生まれ。南国市農業協同組合理事、南国市市議会議員を経て昭和58年5月初当選。現在6期目。第82代高知県議会議長。現、県連総務会長。

満洲 健夫 議員



今、食料自給率の低下が叫ばれている時だから内外にアピールできるいいチャンスだ!

■議員になる前のご職業を。南国市農協の理事を務めていました。実家が農家だということもあり、農業一本でした。その後、南国市議員を二期務めたのち県議会議員になりました。

■ご自身の政策提言を含めて産業振興についてお考えをお聞かせください。南国市は高知市について県内二番目の市で農業を中心とした産業が盛んな人口5万人のまちです。特に南国市の産業と関係がある園芸出荷額ですが、今、その落ち込みを最も危惧しています。ひと昔前は950億円ほどあった県全体の出荷額も年々減り続け、現在620億円ほどになっています。やはり高知県は第一次産業が盛んならなければなりません。食料問題という大きな視野も入れながら考えていくべきです。特に日本のものづくり(食品づくり)は勤勉で誠実です。今こそ地産地消の推進、環境保全農業の先進県としての取り組みを、内外にアピールするべきです。

■具体的にその農業振興策は。私が以前から議会や執行部へ提唱

してきた「食育」は、いち早く南国市で取り組みがはじまりました。食物の尊さを、作ることに大変さ、そして食べることに感謝とを、地域学習の根幹に位置づけていこうと語り続けてきました。今でこそ「地産地消」は当たり前のことになりましたが、南国市では標準的な農業振興プラス教育という施策でもあったわけですね。ですから、「地産地消」の考え方はこれからもっと標準化していく必要があると思います。

■県内での競争が激しくなってきた今、高知の農業の特徴は何か。有機農法で行くなら行く、同じ品種でも差異化を、というふうに見てもわかりやすい特徴を持たねばなりません。それが出荷額に頼らない、高知の農業の生き残り策だと思っています。プラス思考で考えていかんといかん(笑)

■県のインフラ整備について。空路では高知〜沖縄線の廃止が決まりましたが、なんとか阻止とはいかないまでも、減便という方向でまともな考えがあったのが悔しいですね。

また、高速道の延伸は計画が延期になったりと工期全体の遅れが目立っていますが、南国市以東への延伸の実現を訴え続けています。

■休日過ごし方をお聞かせください。たまにハウスや田んぼに出て、体を動かしたりヒマを見つけては花木をいじっています。時々、二輪愛好会の仲間とツーリングにも出かけています。